

26 わが国における第二次大戦前のインフルエンザ超過死亡

—スペインかぜ以前と以後—

逢見 憲一

国立保健医療科学院公衆衛生政策学部／順天堂大学公衆衛生学教室

【目的】

わが国における第二次世界大戦前のインフルエンザによる健康被害を、定量的に把握することを目的とした。

【方法】

対象期間は1899年1月から1938年12月までとした。人口動態統計を用い、高橋らの方法により、月別季節指数を用いて各年次の月ごとの超過死亡率および超過死亡数を推計した。

【結果】

1. 流行月数インフルエンザによる超過死亡がみられた月は、1900年2,3月1907年2月、1916年3月、1918年11,12月、1919年1~4,12月、1920年1~4月、1922年1~3月、1924年3月、1925年1~3月、1927年2,3月、1928年3月、1929年2~4月、1931年1~5月、1932年3,4月、1934年1~3月、1936年1~3月、1938年1~3月の計44月であった。

2. 超過死亡数

(1) 全体対象期間中の超過死亡数(点推定、カッコ内は95%信頼区間)の合計は993,266(603,582~1,350,033)人で、年平均24,832(15,090~33,751)人がインフルエンザによって過剰に死亡していたと推定された。

(2) “スペインかぜ”流行期：1918年11月から1920年4月までの“スペインかぜ”流行期の超過死亡数の合計は465,670(361,972~560,466)人であった。月別の超過死亡数をみると、1918年11月が148,973人、12月47,419人、1919年1月が23,186人、2月29,851人、3月23,291人、4月12,089人、同年12月が11,903人、1920年1月が73,619人、2月51,660人、3月30,356人、4月が13,323人であった。“スペインかぜ”流行期を1919年春までの前流行と1919年冬からの後流行に分けた場合、前流行期の超過死亡数は284,809(229,893~335,047)人、後流行期の超過死亡数は180,861(132,078~225,419)人であった。

(3) 時期別超過死亡数：“スペインかぜ”流行開始までの1918年1月から1917年12月の19年間の超過死亡数は、合計50,768(23,225~76,134)人、年平均2,672(1,222~4,007)人であった。“スペインかぜ”流行期を含む1918年1月から1920年12月の3年間の超過死亡数は合計465,670(361,972~560,466)人、年平均155,223(120,657~186,822)人、“スペインかぜ”流行が終息した1921年1月から1938年12月の18年間の超過死亡数は合計476,828(218,385~713,433)人、年平均26,490(12,133~39,635)人であった。

【考察】

(1) 今回の推計結果は、速水の推計(前流行260,647人、後流行186,673人、合計453,152人：速水融「日本を襲ったスペイン・インフルエンザ」参照)に整合していた。

(2) 今回の推計によって“スペインかぜ”流行以前および以後の幅広い期間の超過死亡についても知ることができた。

(3) “スペインかぜ”流行期を除いても、“スペインかぜ”以後の時期は、“スペインかぜ”よりも前の時期に比べて、年平均で約10倍の超過死亡がみられるようになっていた。